四季だより

八月号

No.58

発行　平成十八年八月一日

南雲工房

今より約三十年前、この地にこの工房は新しいスタートを切った。一階の木工機の設置が全て完了し、夕刻父と私と息子（信平）の三人がそこに居た。父も私もこれからここで仕事を始めることの希望と不安を交錯させながら見廻していた時のことである。四才の息子は何を思ったのか突然、床にあったボロ布を拾い木工機を拭き始めたのだ。父はそれを見て大層喜び「この子は利口な子だ。何も言わないでもこれだけのことに気が付く。お前も幸せじゃのぉ…良い子を持って」父母は私に家業を継がせたくなかった。「難しい仕事じゃけんお前はサラリーマンになれよ」なる程父母が仕事に精出す姿は苦労を背中に一杯背負う印象しかなかった。私も息子にこの仕事を継がせる気など毛頭なかった。それが：色々変遷はあったが、気が付けば一緒にこの仕事をしている。人は目に見えない道を抱えて生れているように思う。遠回りをしても迷い道から抜け出しても、結局はどうしようもない見えない自分の道を歩み出していることに気付くことがある。父が他界して十九年。いつしか私が三十年前の父の歳となり、南雲工房のスタートだったあの夕暮れの三人が立場を変えながらも現在も仕事が出来ている。このことこそ幸せである。

息子もこの仕事に足を踏み入れて十年が経とうとしている。あの小さな子が、木工機を拭いたあの時から、この仕事で生きてゆく最初の切っ掛けであったように思えてならない。

Naun's club
8月お届けの作品

サイズ：18cm×15cm×10.5cm

www.naun.co.jp

道後「花　心」　☎089-945-9050
道後「雛　屋」　☎089-931-1477
今坊アトリエ山荘「南雲草」　☎0893-52-1223

株式会社「南雲」
〒791-8043　愛媛県松山市東垣生町1084
☎089-973-3565
📠089-971-8345